

第4回藤沢市地域経営戦略100人委員会

と き 2009年(平成21年)11月29日(日)
午後2時～4時30分
ところ 明治公民館

次 第

- 1 開会
- 2 「ふじさわ未来課題」の収集と分析について
- 3 総合計画審議会との合同協議について
- 4 宿題と話し合い

事務局
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

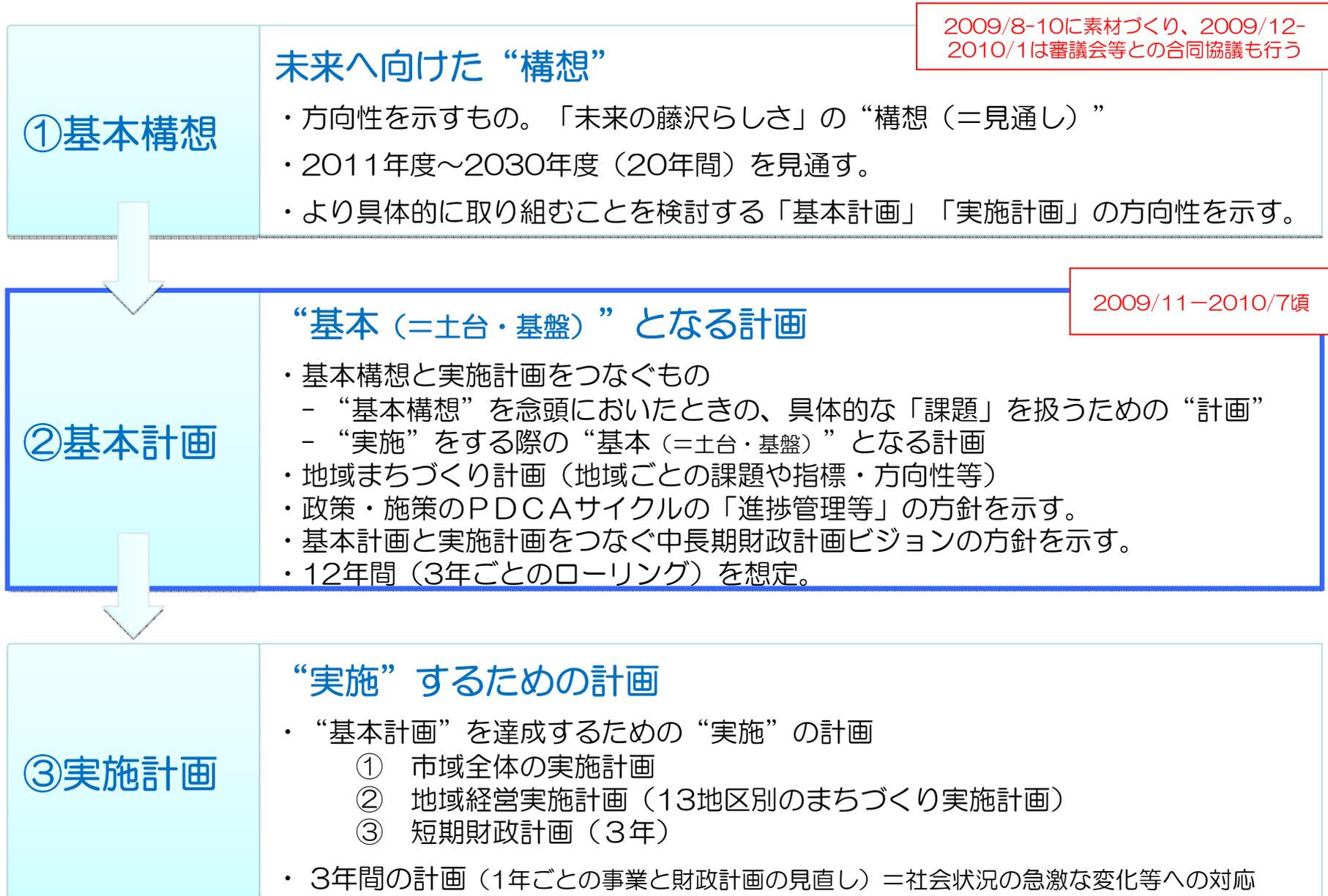
地域経営戦略100人委員会（Team238）活動計画

～ 基本計画編～

(1) 【集める】 (2) 【読み解く】

平成21年11月29日





基本計画の役割：“基本（＝土台・基盤）”となる計画

- ・基本構想と実施計画をつなぐもの
 - “基本構想”を念頭においたときの、具体的な「課題」を扱うための“計画”
 - “実施”をする際の“基本（＝土台・基盤）”となる計画
- ・地域まちづくり計画（地域ごとの課題や指標・方向性等）
- ・政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理等」の方針を示す。
- ・基本計画と実施計画をつなぐ中長期財政計画ビジョンの方針を示す。
- ・12年間（3年ごとのローリング）を想定。

ポイント

- ★ 未来を実現するための「**課題（＝改善すること&伸ばすこと）**」を様々な立場から徹底的に**洗い出す**
- ★ 政策・施策の**重点化**と目標の設定のために**メリハリ**ある形で整理する
- ★ 「課題」の**現状を評価できるようにする（＝指標づくりを行う）**
 - ⇒ 計画（Plan）は、実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）→計画→…の持続的なサイクルにつなげるもの。基本計画の段階から評価と改善ができるように設計する。
 - ⇒ 「指標づくり」＝**共通の目標**を持つことで、様々な主体が**地域協働で評価**できるようにする。
- ★ 各地域の特徴を反映した「**地域まちづくり計画**」を位置づける
 - ⇒ 地域ごとにも「課題」や「指標」の特徴を検討する
- ★ 政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理」システムを位置づける。
- ★ 基本計画と実施計画の関連性をはかるための、中長期財政計画ビジョンを位置づける。

(1) 【集める】 “気づき” の収集 (11月-1月)

11/1 [第3回委員会] ① “気づき” の収集 (準備活動)

11/29 [第4回委員会] ① “気づき” の収集 (方法確認)、③ “深掘り” の演習 (先取り演習)

11/30-1/31 [各地区・領域で] ① “気づき” の収集 (収集活動と随時提出)

(第5回・第6回委員会(12/12,1/24) : 「基本構想」について、審議会との合同協議)

(2) 【読み解く】 「ふじさわ未来課題」の設定 (2月-3月)

(2月上旬 [コーディネータチームで] “気づき” の入力・フレーズ調整・カード化 ※ 以前に集めた情報も活用)

2/27 [第7回委員会] ② “気づき” のグループ化 (整理マトリックスへのカード仕分けと統合化)

(3月上旬 [コーディネータチームで] グループ化した “気づき” のデータ化と、深掘りシートの作成)

3/20 [第8回委員会] ③ “気づき” の深掘り : 「ふじさわ未来課題」の検討

(地区・領域で深掘りする気づきの検討と「深掘りシート」への記入)

(4月上旬 [コーディネータチームで] 「ふじさわ未来課題」の入力・集約作業 (地区・領域横断で1つに))

4月 [第9回委員会] ③ 「ふじさわ未来課題」の確認、④ 「ふじさわ未来課題」メリハリ調査の検討

(4月下旬 [コーディネータチームで] メリハリ調査の準備活動)

(3) 【メリハリ】 「注目・ふじさわ未来課題」の調査 (4月)

④ 「ふじさわ未来課題」のメリハリ調査 (市民アンケート)

(4) 【指標づくり】 「まちづくり指標」の設定 (5-6月)

⑤ 「まちづくり指標」の検討と設定

⑥ 「まちづくり指標」の現状値調査

⑦ 「めざそう値」「役割期待値」の調査

(5) 【まとめる】 「地域まちづくり計画」として記述 (7月)

⑧ 「基本計画書」を記述

◆ 目的

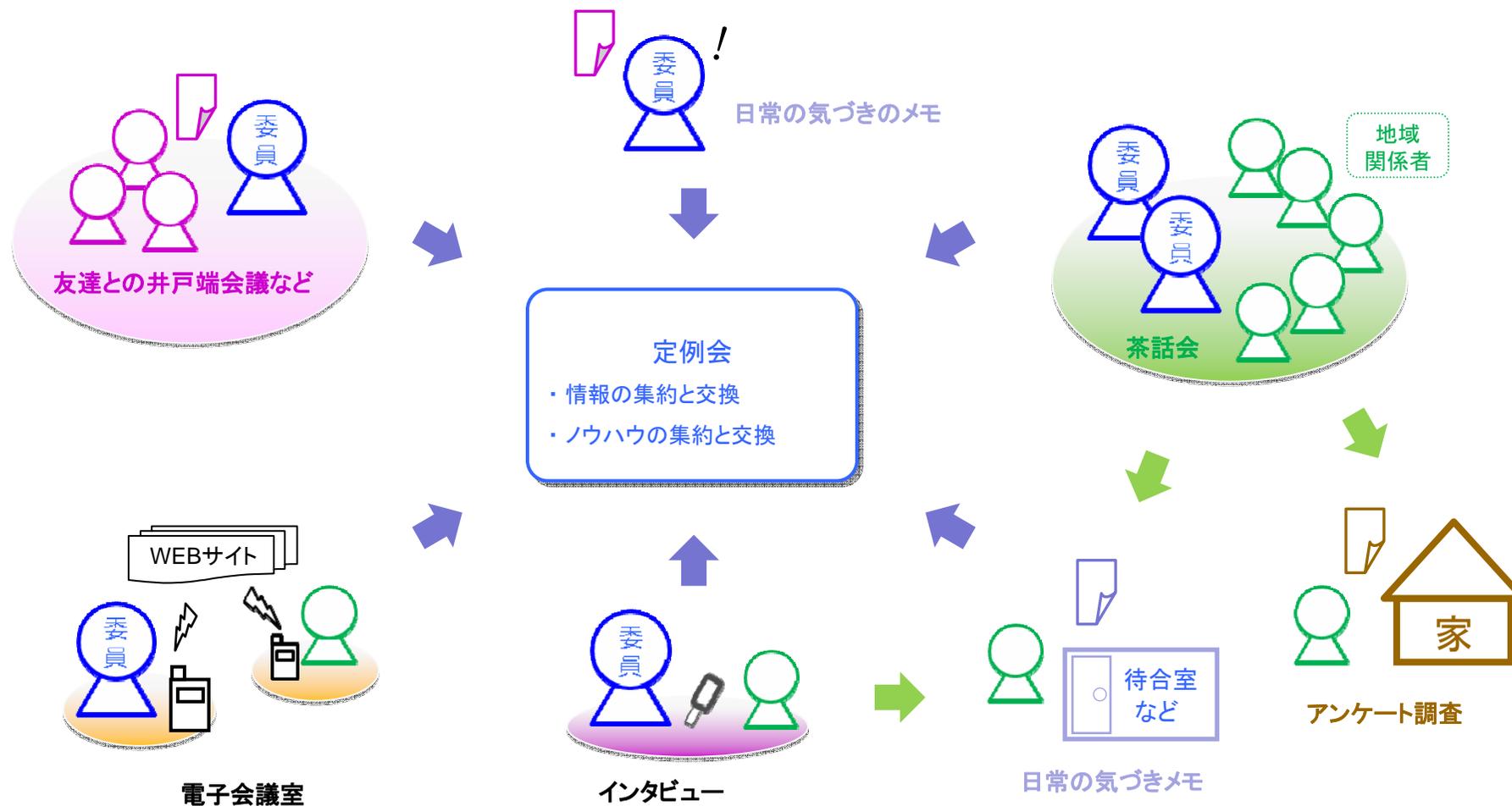
“気づき（＝生活実感や活動実感）”について、**藤沢市民の皆さんの
実感を丹念に洗い出し、実態を捉える**

◆ 方法

地区ごと・活動領域ごとに、誰に・どのようにして“気づき”を聞くかを検討し、実施する。

例)

- ・ 共通の調査票を町内会などで配布して書いてもらう
- ・ 書いてもらいたい方を検討して、お願いをする
- ・ これまでに行ってきた調査などを再度確認して、調査票に書き出す
- ・ 市民委員が日常的に持っていて、気づいたとき、対話したときに書き留めておく
- ・ 似たような経験を持っている人にあつまってもらい、調査票の内容に従って、話し合ってもらう
（記録を簡条書きで作成）
- ・ ポストイットを使って話しあう日を設定して、集まってもらう など



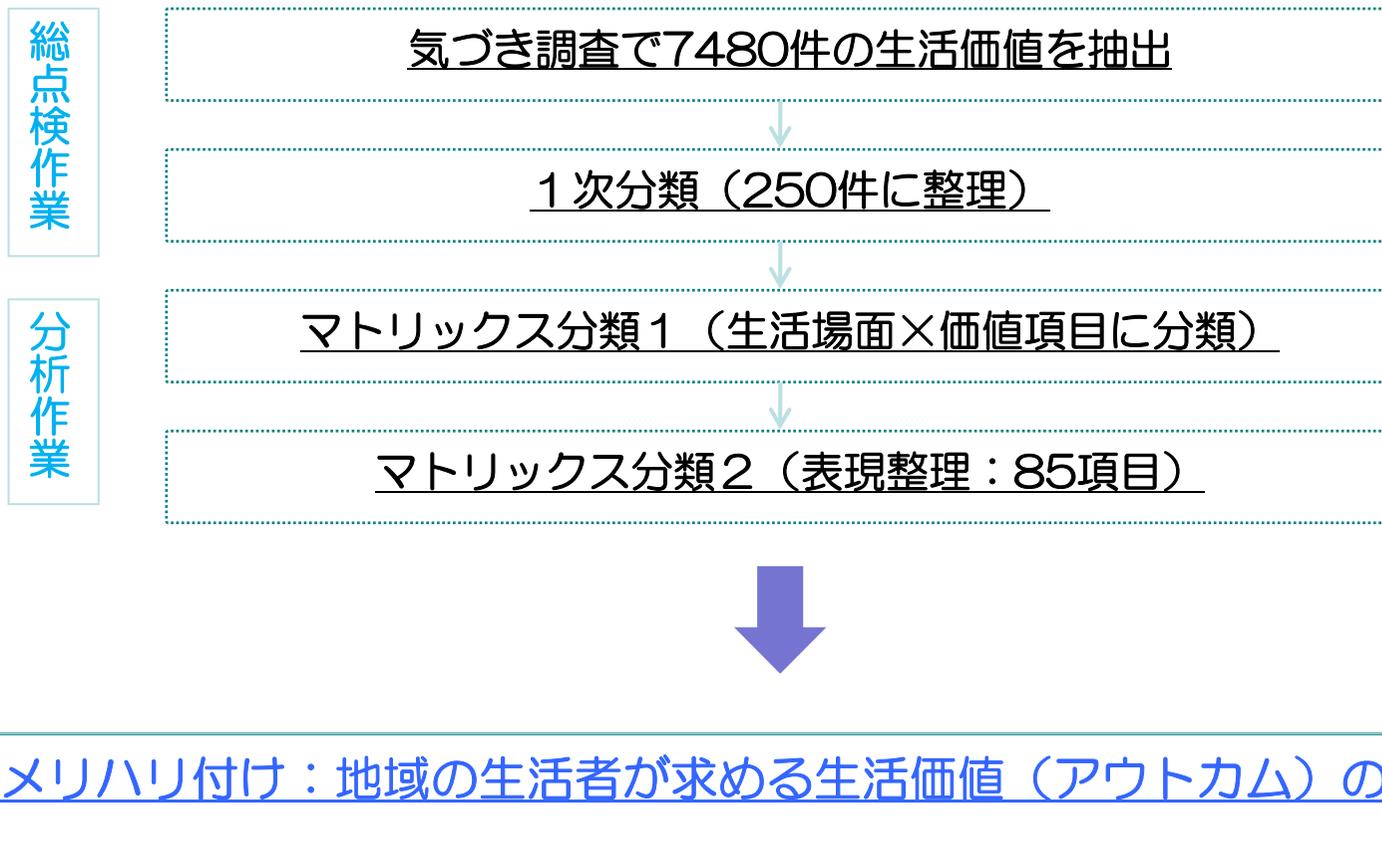
◆ 目的

幅広く丹念に集めた“気づき”について、マトリックスに整理をしながら、統合化していく。

◆ 方法

1. 寄せられた“気づき”の入力 [コーディネータチームで]
※ 今回の気づき調査よりも前に集めた情報も活用
2. “気づき”のフレーズ調整とカード化 [コーディネータチームで]
フレーズ調整：類似・共通発言の集約、個人情報・事情の削除、表現レベルの共通化
カード化：1カードに1つの気づきを記載（地区や領域等の情報も記載）
3. 「整理マトリックス（マス目）」の設定
“気づき”の全体傾向や基本構想での表現を参考に、カードを整理するマス目を設定
4. 「整理マトリックス」へのカードの仕分け作業
カード化した“気づき”を「整理マトリックス」のマス（箱）に仕分けしていく。
複数のマスに属するものは、カードを複製して仕分けする。
5. カードの統合化
各マスごとにカードを整理。必要に応じて別表現のカードを作る。
代表的なカードを一番上にして、関連するカードをホチキス等で留める

市民委員と慶應義塾大学が協働で各種の調査活動・分析活動を推進



(参考) 青森市 生活者が指摘する「まちなかの“生活価値”」85項目 9

	安心だ	楽しい	お手頃・気軽・楽ちんだ	つながり	ためになる・役に立つ
買う	1)思い立ったとき買い物に出かけやすい 2)安全で質のよいものを選べる・買える 3)ギフトも、お総菜も、お土産も買える 4)通いなれたまち、なじみのお店で買える	1)いろいろなお店や品物と出会える 2)新しい流行、ファッションがわかる 3)なじみのお店で楽しく買い物できる	1)「ついで買い」がしやすい(散歩しながらなど) 2)「とっさ買い」がしやすい(夕食前後も、会合の前後、仕事帰りなど) 3)「ちょっと買い」や「出来合いもの買い」がしやすい	1)なじみのお店がある・融通が利く 2)おまけやスタンプ、いろいろなサービスをしてもらえる 3)お店で会話を楽しみ時間をつぶせる 4)子どもといっしょに買い物ができる	1)よいもの、新しいもの、珍しいものなどが買える 2)品物やサービスに詳しくなれる 3)新しい店、変わった店、きれいな店が見つかる
食べる	5)一人でも大勢でも子連れでも食事ができる 6)地域の豊かな山海の幸を食べられる 7)安全で質の良い食材を食べられる	4)食べ歩きを楽しめる 5)友だちや家族とくつろいで食事を楽しめる 6)おしゃれな会食が楽しめる 7)和洋中いろいろな食事を楽しめる	4)出前や会食、屋台やファストフード、いろいろな形で食事できる 5)料理や値段の幅が広く、お手頃なものがある 6)季節感やおしゃれさ、気分に合わせて食事ができる	5)なじみの店で食事ができる 6)友だちや家族といっしょにくつろいで食事ができる 7)郷土食や地域の食材を使った食事ができる	4)レストランから手軽な屋台まで、目的や時間にあわせて食事ができる 5)高級・B級、予算にあわせていろいろなメニューを楽しめる 6)にぎやか、しんみり、おしゃれ、気分にあわせて食事ができる
遊ぶ	8)子どもが元気に遊べる場所があること 9)夏でも冬でも、朝でも夜でも遊べる 10)屋内でも屋外でも遊べる 11)まちの緑や海を楽しみながら遊べる	8)いろいろな楽しみ、遊びができる(映画もネットカフェもつりもヨットも) 9)いつでも、四季折々に楽しみがある(ねぶたも雪祭りも) 10)いろいろな友人と趣味や遊びを楽しめる	7)ふだん、お気軽に時間をつぶしてられる 8)お祭りやイベントに足を運びやすい 9)一人でも、友だちや家族といっしょでも楽しめる	8)趣味や同好の仲間を作りやすい 9)身近な地域の祭りやイベントがある 10)いろいろな世代の人が集まってくる 11)子どもたちの遊ぶ声や姿がある	7)趣味を始めたり同好の集いを開きやすい 8)ねぶたなどを毎日楽しみ自慢できる 9)映画やイベント・コンサートを楽しめる
学ぶ	12)先生や親の目がゆき届いている 13)まちの人が子どもに気軽に声をかけてくれる 14)教育・文化の施設に行き来しやすい	11)図書館で静かに知的に楽しめる 12)同じ目的で学ぶ人と出会える 13)青森をよく知る機会が多い	10)図書館など文化施設や教養講座に行きやすい 11)気軽に読書してられる(図書館も喫茶店も) 12)遊んだり楽しみながら学びやすい	12)子どもも大人もいっしょに学んだりお稽古をしやすい 13)ふだんからまちの文化に触れられる 14)図書館や学校が近くて集まりやすい	10)学校、進学塾、図書館など学ぶ環境が充実している 11)趣味や専門の勉強を続けやすい 12)流行やファッションを知りやすい 13)歴史や文化、アートに親しみやすい
住む	15)ご近所の底力がある(商店街や町会) 16)病院や働く場所が近くて安心できる 17)冬の暮らしの負担(雪かき)が小さい 18)何かのとき近くの誰かに相談しやすい	14)青森らしい祭りやイベントが近くにある 15)身近な風景に青森らしさがある 16)子どもたちや若者とふれあえる 17)冬も歩きやすく、暮らしを楽しめる	13)バス・電車にも、自転車にも乗りやすい 14)歩く範囲でたいがいの用が足せる 15)近くに病院や働く場所がある 16)天候や季節をあまり気にしなくていい	15)まちの人が優しく、地域を好きな人が多い 16)いろいろな世代や地域の人と知りあい交流できる 17)他人とほどよいふれあいができる	14)新しい発見や驚きがある 15)いろいろな気分転換ができる 16)自然、季節を感じながら暮らせる 17)住みたい、住み続けたいと思える

◆ 目的

委員自身による“気づき”や、地区で調べたことなどを深掘りし、**実態をより深く理解した上で、「ふじさわ未来課題」を検討する。**

※ 課題とは「カイゼンすること」と「良さを伸ばすこと」の両方の意味をもつ。
地域として実現したいこと(アウトカム)である。

◆ 方法

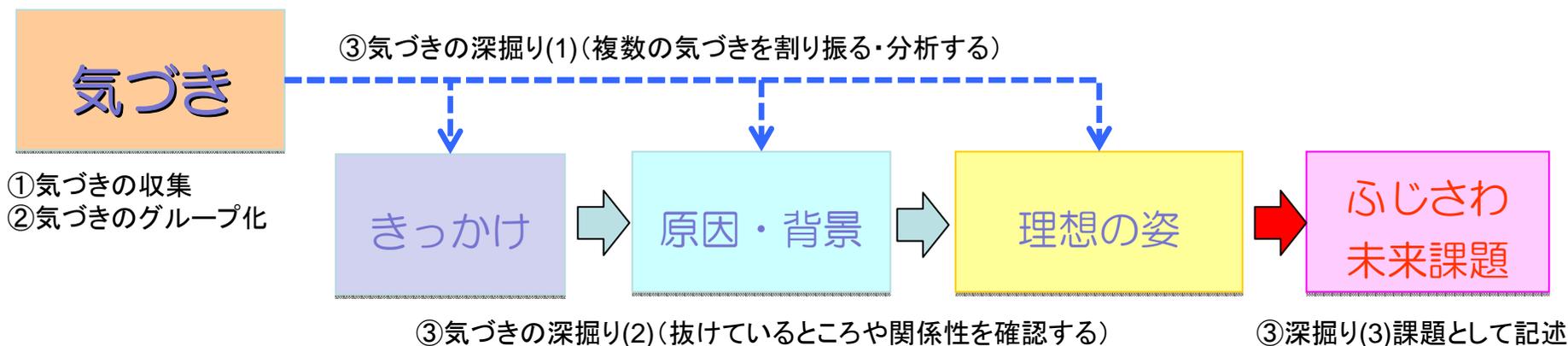
1. グループ化した“気づき”が記載された「**深掘りシート**」を作成
2. 地区・活動領域で深掘りする“**気づき**”を**選定**（シートの選定）
3. 「深掘りシート」の**検討方法を工夫しながら、シートを作成**

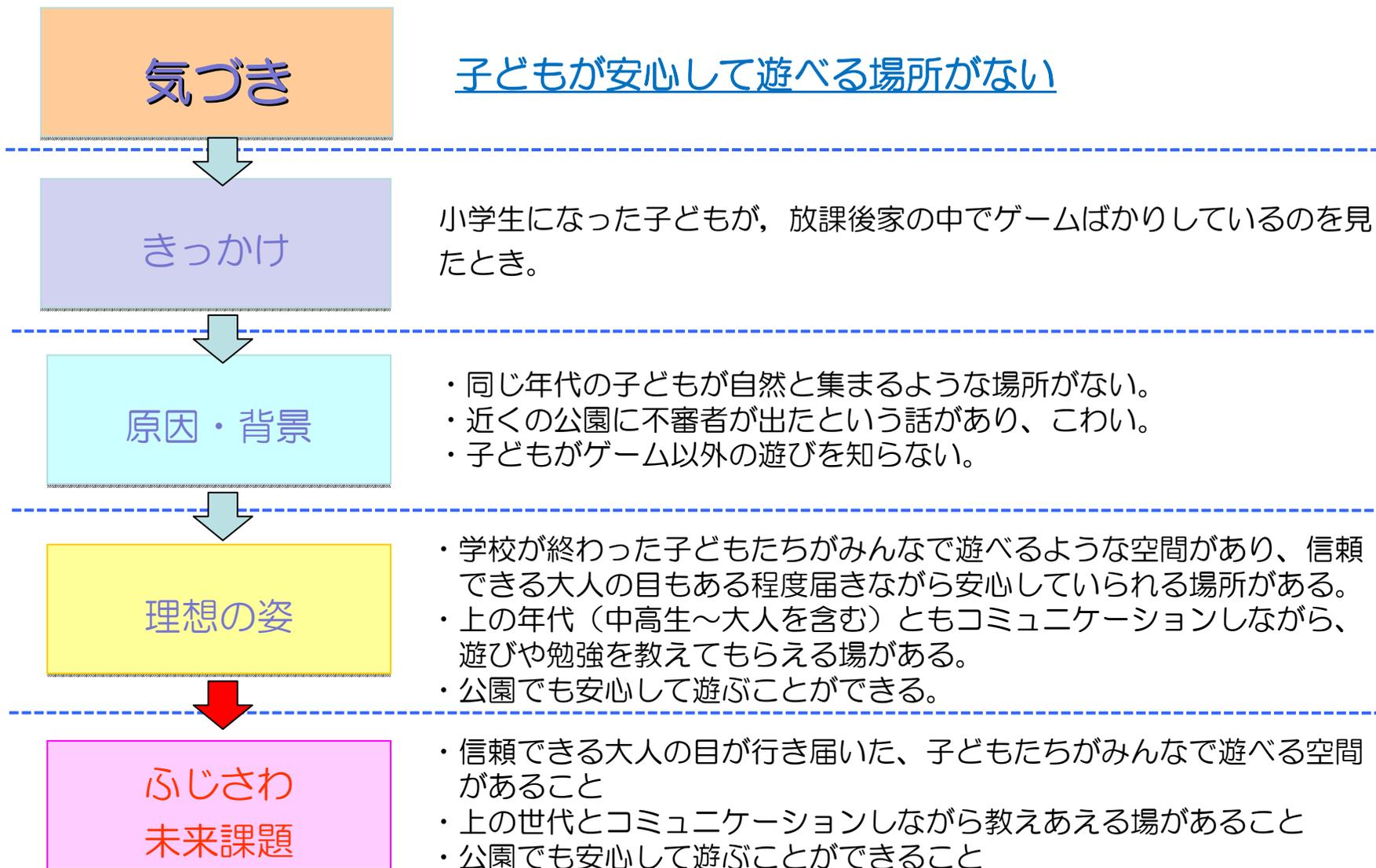
検討方法の例)

- ・ 「深掘りシート」をもって、様々な方と話し合っ、書き出す
- ・ 地区や領域で集まり、話し合いながら「深掘りシート」を作成する
- ・ 深掘りをさせていただくと、示唆が得られそうな方をお願いして、記述してもらう など

◆ ふじさわ未来課題とは？

- ・ 「課題」とは，将来像や目標に向かう際に，**追求・行動すべきこと**です。
- ・ それは，①現状を**カイゼン**するもの、②現状の良さ・魅力を**伸ばす**ものの2種類あります。
- ・ 何らかの“**気づき**”から，気づいたきっかけや原因・背景、理想の姿を分析・検討（**深掘り**）し，「課題」を導き出すことを行っておくことで，根拠だった計画策定や活動・事業の実施を円滑に進めることに繋がります。
- ・ 藤沢市では、こういった「課題」について「藤沢の未来を共に創るための課題」という意味を明確にするために「**ふじさわ未来課題**」と呼びます。



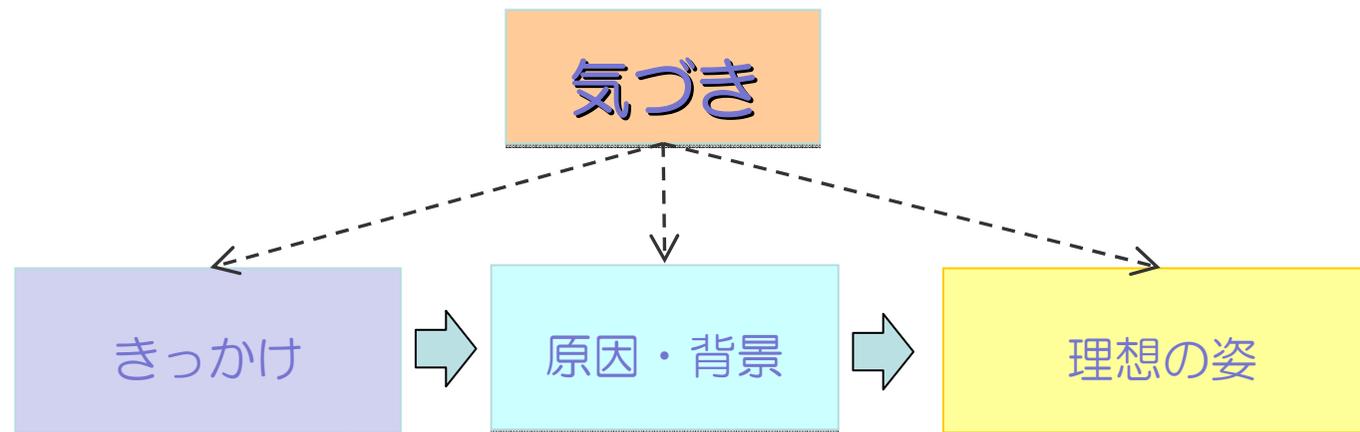


※ “気づき”を深掘りし、深みのある「ふじさわ未来課題」を検討します。

気づき

まずテーブルごとに“気づき”を選んで...

- ① まず、一人ひとりでふせんに思ったことを書き記します。
- ② 発表をしながら模造紙に貼ってください。〔ほかの方はコメントせず、聞いてください。〕
- ③ 似たものをグループにして、まとめてください。〔グループは複数できて良い。〕



第2回地域経営戦略100人委員会

地区・領域別に話し合われたことのまとめ

第2回地域経営戦略100人委員会において話し合われた、地区別・領域別の課題等について、各グループが記載した心に残ったことや話し合いのまとめを、できるだけ原文のまま掲載したものです。

このグループ討議は、第3回以降の検討の下地とするための共通認識の場として開催したものです。

地区別ワークショップ

六会地区（テーマ：まちづくりの将来像）

- ・ 農業を大切に。今ある農地を残したい。
- ・ 石川丸山谷戸など、自然を大切に残したい。
- ・ 新しいセンターを中心とした地域コミュニティの再構築
- ・ センターは地区の防災拠点である。
- ・ 小田急線で分断されて、踏切は大変不便。六会駅前を再構築、整備して、まちのバリアフリー化を実現する。
- ・ 地域の資源とも言える日大と連携・協力する中で、まちづくりにその力を活かしたい。

長後地区（テーマ：長後のまちづくりの将来像（駅周辺・商店街の活性化）、農作物（地域の地産地消）

- ・ 物理的なこと（道路問題）、長後駅西口の開発によって、住民にメリットはあるのか。
- ・ 開発は、市政・県政の兼ね合いか。
- ・ 長後のまちの活性化＝住みよいまちになっていくのか？
- ・ 狭隘道路が多く、難しい（課題が多い）。
- ・ 農業によるまちの活性化が必要である。
- ・ 歴史＝大山街道のまち。史跡散歩や長後の発見、祭りによる新旧住民の交流の場が必要である。

善行地区（テーマ：住民の活動の拠点としての市民センターの新設）

- ・ 大会議室・小ホールが欲しい。
- ・ 団体共通の自由に使えるホール（ロッカーetc)
- ・ 善行の歴史観（昔活・展示 etc)
- ・ 子育て・高齢者支援活動（保育園・交流質の設置）
- ・ 駐車場
- ・ 環境にやさしい建物（太陽光発電・コ・ジェネ）。発電・熱利用から浴場の設置も可能
- ・ 弱者のための避難場としての役割

- ・ 駅からの歩きやすい道づくり（小田急線との連携出口設置）
- ・ 地区外利用者に向けての有料化システム
- ・ 経営としての有料施設（レストラン・カフェ・貸館）
- ・ 公民館としての学習施設

遠藤地区（テーマ：今後の運営方法，自然＝環境について，環境整備がされている。）

- ・ 自然を残すことに賛同を得て，力強く思った。
- ・ 里山を中心とした街並み，それがこれからの進むみち
- ・ 災害に強いまちづくり
- ・ 小出側に観光客が大勢来ている。自然がすばらしい。

湘南大庭地区（テーマ：この地区で残したいもの）

- ・ 街路樹の保存と整備
- ・ バリアフリーの充実とバイク・自転車等の整合
- ・ 今の街並み

藤沢地区（テーマ：藤沢地区のまちづくり（新公民館（建替え後）と連動した取り組み）

- ・ 総合計画の中に公民館の建替えを入れて貰う（位置づけ）
- ・ 新公民館は藤沢高校跡地で，藤沢本町駅，商店街，伊勢山公園，市民病院等の連携（活性化！）

鵜沼地区（テーマ：風景，環境，変化，実現したいもの）

- ・ 公園は残したいが，遊びに出てくる子どもがいない。
- ・ 子どもは塾やゲームで忙しい。公園使用の規制も多く，キャッチボールなどができないことが多い。
- ・ 犯罪に巻き込まれる危険性があるので，親が外に出さない。
- ・ 安心して子どもを産める環境を。
- ・ 高齢者が，生きがいを持って，元気で過ごせる環境を。
- ・ これから 30 年後は，湘南台が藤沢の中心になるのではないか。
- ・ 北部は，交通網が発達し，緑が少なくなり，人口は増加すると思う。
- ・ 南部（鵜沼海岸）は，海岸が狭くなり，高層ビルが立ち並ぶと思う。
- ・ 住みよいまちにするため，となり近所のふれあい，助け合いを大切にしたい。
- ・ 30 年後にはもっとふれあいがなくなり，個人志向が強まるかもしれない。
- ・ 防災面では，ふれあい，助け合いがより必要だと思う。
- ・ 30 年後は，電柱の地中化が進み，道が広くなり，緑化が進むかもしれない。
- ・ 大きな樹はいらないという意見もあり（日陰が多く，日照権を侵害するという理由）。
- ・ 30 年後は，電気自動車が主流になり，各家庭に簡単な太陽光発電が普及すると思う。
- ・ 目に見えないがなくしたいもの＝「子どものいじめ」「犯罪」「登校拒否」「親の子どもへの虐待」

片瀬地区（テーマ：自然環境）

- ・ 川が汚い。昔は泳げた。最近は少しはきれいになった。
- ・ 砂浜が小さくなっている。施設や橋などの影響
- ・ 30年後には泳げる川であって欲しい。素敵な浜辺の海であってほしい。

御所見地区（テーマ：農業、地域計画）

- ・ 農業を通して、土から野菜を育て、食卓にのぼり、口に入るまでの食育を藤沢市民に体験してもらい、理解を深めることで、「藤沢」に対する「郷土愛」を市民ひとりひとりが養うことが大切！
- ・ 農業生産法人化へ
- ・ 大型直売所（道の駅・御所見ブランド）＝雇用の場の創設
- ・ 農業を残すことで景観～環境まで保存できる。
- ・ 地域で農業をやめる方、後継者がいない農家に参画してもらって農地を集める、技術は農家、労働力は地元の若者やシニアの方、学校や病院、地元スーパーに野菜を出荷
- ・ 福祉・教育・まちづくり・観光がつながり、総合計画に値する良質の地域計画を作成する。またその基盤としての会議・組織をつくる。

湘南台地区（テーマ：「湘南台らしさ」について～湘南台の魅力や課題、個別課題等をもとに意見交換を行う）

- ・ 病院が欲しい。
- ・ 3線の乗り入れの立地が良い。
- ・ 産婦人科がない。
- ・ 高齢化が進んでいる。エステテラの将来も同様。若い世代に来てもらいたい。
- ・ ほとんどが通勤者＝週末対策
- ・ 子ども（次世代）が帰ってこない。
- ・ 交通・防災の安全安心
- ・ 高齢者福祉・子育て福祉
- ・ 地産地消の促進…地域の産物を使ったレストラン・学校給食。県下で有数の生産量を誇る産物がある。
- ・ 駅前対策…ネオン等、産業誘致の種類（選別）、まちづくりの防犯対策、門灯の点灯補助…太陽光
- ・ 湘南台でのアンケート実施
- ・ 湘南台での犯罪…空き巣

辻堂地区（テーマ：環境（歴史・文化保存）（自然環境）、湘南（定義）

- ・ 地元の文化、歴史環境を守っていきたい。
- ・ 自分たちでは「藤沢らしさ」などといわない、外からいうのではないか。
- ・ 湘南に対するこだわりが強い。

明治地区（テーマ：明治の魅力と自慢）

- ・ 北部の緑
- ・ 若いお母さん・お父さんなど幅広い公民館利用者が多く活氣的
- ・ ニコニコスペース・耕途塾はすばらしい。
- ・ C-X のイメージが良い。

村岡地区（テーマ：環境について）

- ・ 小塚地下道から古館橋間の道路の拡幅
- ・ ごみの課題は、自治町内会未加入者のモラルが課題となっている。
- ・ 公園のごみが多いと感じる。
- ・ 近隣住民がボランティアとして集めている。
- ・ 利用者（若者？）のモラルが守られていない。
- ・ 市の条例，看板だけでは効果がない。
- ・ 新林，川名緑地が大切
- ・ 限られた緑が失われた。

領域別ワークショップ

多文化共生・男女共生（テーマ：「共生」について，多文化と異文化について）

- ・ 共通点を見つける機会があれば，友人になれる。
- ・ コミュニケーションが基本（垣根をとること）。
- ・ 接する機会が重要。生み出すためにはスポーツ等
- ・ 自分の生活が忙しくなると，共生の意識が薄くなることが課題

子育て・教育

- ・ 家庭・地域の教育力が落ち，学校で問題が起きている。
- ・ 身の周りの子どもたちがやる気がない，前向きではない。
- ・ 「誰かのために」という意識が薄い。
- ・ ユースリーダーをつくりたい。
- ・ 子供会に対する行政支援を。
- ・ 子供会は社会教育の一環。地域のかかわりを強く。
- ・ 親・子・社会の関わる場を守っていききたい。
- ・ 親子の接点が希薄
- ・ 子育てしやすいまち・藤沢…ちゃんとアプローチすれば，子供を受け入れてくれる環境はある。
- ・ 学校に芝を生やしたい。

地域コミュニティ（テーマ：コミュニティとは・コミュニティをつくるには）

- ・ 観覧車のイメージ…いくつかの論点について，あらかじめ用意し，必要になった人々が一斉にワッと乗り込める。

- ・ 情報共有は、ありとあらゆる媒介を使って
- ・ 自分の今の生活の問題とコミュニティが論じている問題がマッチしない。
- ・ 藤沢は南北に広いため、各々自慢できるポイントで集まれる「地域」づくり，ポジティブに感覚で集まる。

芸術・文化（テーマ：市内の芸術・文化のあり方）

- ・ 作品を発表する場がない。
- ・ 自分たちのまちの文化・歴史を知る機会が少ない。
- ・ 歴史・文化に基づいた観光があるべき
- ・ 生まれ育ったところを語れない。

福祉・医療

- ・ 市内の医療と福祉の資源について 市民病院は臓器別診療科制で，開設当初より運営されている数少ない病院である。
- ・ 市内の医療と福祉の資源について 医療より福祉については，特別養護老人ホームの待機者があり，解消されていない。またこれを担う家庭での介護力が低下してきている。居宅サービスをさらに充実する必要がある。

環境（テーマ：藤沢市の森林,海など）

- ・ 桜などの植林，神社・寺などの緑地保全
- ・ 湘南海岸の松林（ホームレスの問題）
- ・ 川をきれいに。

地域まちづくり

- ・ 皆さんの地域を愛する情熱が伝わり，今後の話し合いが楽しみとなった。
- ・ 他の領域に比し参加人数がおおいは，それだけ楽しみがあるということだろう。
- ・ これ以上人口が増えないようにとの意見もあった。

産業

- ・ かわせみ学園・ふじさわを知ろう
- ・ マップづくり・史跡
- ・ 東海道を歩く→藤沢が汚い？きれいにしたい！
- ・ 団塊塾・藤沢の活性化
- ・ 歳入を増やす取り組みを
- ・ 失業率 5.7%…就業率 up！
- ・ 企業誘致
- ・ 職業教育
- ・ 観光振興
- ・ マーケティング・ニーズの把握
- ・ 情報・IT・教育…

- ・ リサイクル・環境
- ・ 国際問題研究所
- ・ 企業と共に計画づくり
- ・ 地域おこし，地産地消
- ・ 観光などに特化する。

安全・安心（テーマ：街灯について・民間交番はどうですか？）

- ・ 夜が危ない。夜が暗い。夜道を明るくしよう。
- ・ パトロールの強化
- ・ 学校・保育所の近くでパトロール
- ・ 高齢者・児童生徒の行き交うところが危ない。
- ・ 小学生が危ない。子育て中の人でも自転車をとばす。
- ・ イルミネーション365。家で灯りをつけるキャンペーン
- ・ 放火が2件続けてあった。→藤沢も安全ではなくなってきた。
- ・ 民間交番は鶴沼と村岡にあるけど，もっと増やしたほうが良い。
- ・ 鶴沼では毎月パトロールを実施している。



Fujisawa vision

新総合計画・基本構想策定に 当たっての基本的視点

2009年(平成21年)11月29日

起草部会の検討経過

- 第1回起草部会（2009年10月3日）
 - － 新総合計画の位置づけと役割について
 - － 新総合計画の全体フレームについて
- 第2回起草部会（2009年11月7日）
 - － 基本構想のフレームについて
 - － 基本構想の内容について
- 第3回起草部会（2009年11月16日）
 - － 基本構想第一次素案（部会案）について



新総合計画・基本構想策定に 当たっての基本的視点



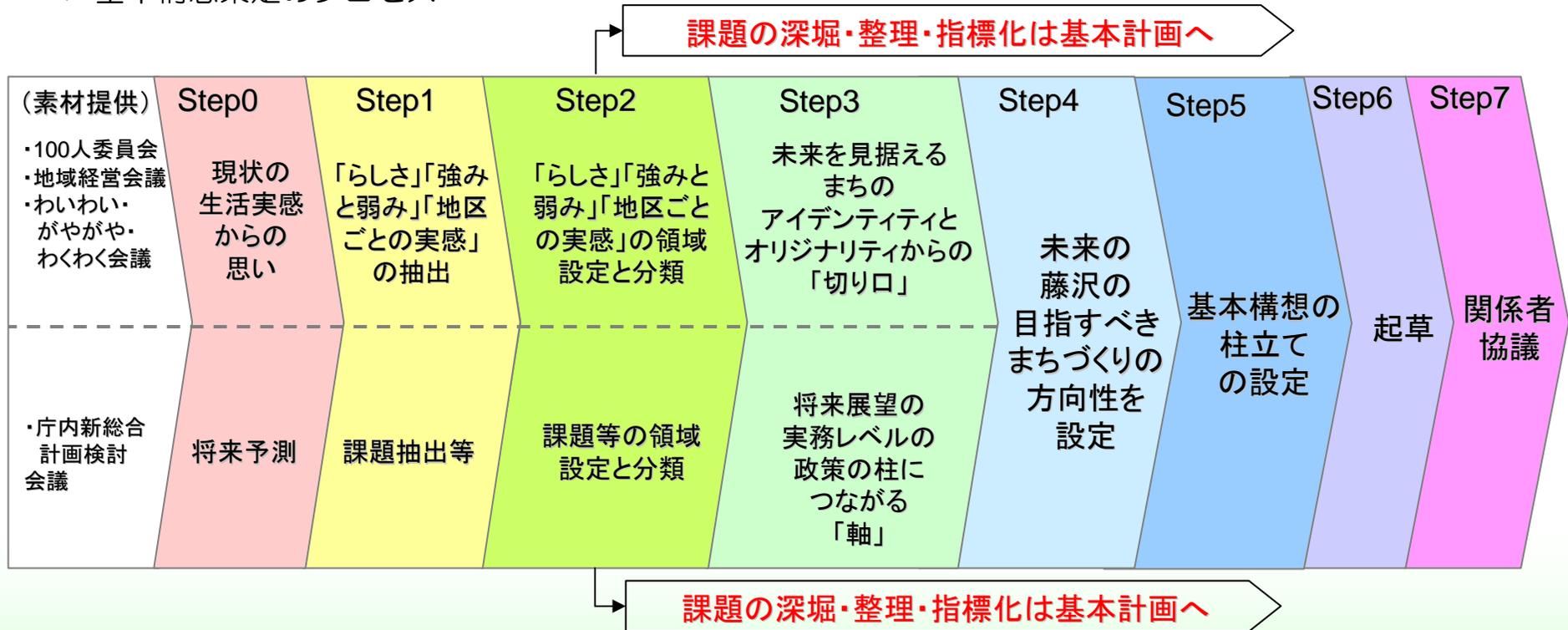
1 前提

- 三層構造の会議体を通じて、課題（「藤沢らしさ」「藤沢の強みと弱み」「地域ごとの実感」及び「将来予測に基づく課題抽出」）をもとに基本構想を練り上げる。
- 三層構造の会議体を通じた議論のキーワードは、「私たちの政府」
- 地域経営・市民主体のまちづくりを基本構想で骨太に展開する。

(参考) 基本構想策定プロセス

- ▶ 「現状の生活実感からの思いと将来予測」から、起草までをStep0～7の8ステップに区分し、総合計画審議会が幅広く新鮮な素材を集めて、切れ味よく「基本構想案」をまとめる。
- ▶ 地域経営戦略100人委員会、市民1000人討論などの関係者と協働で構想を磨き上げる。

▶ 基本構想策定のプロセス



2 起草に当たっての論点整理―①

- 新総合計画は、「行政管理をするための計画」から転換して、「地域経営・市民主体の「藤沢づくり」を推進するための計画」として位置づける。
- 新総合計画を活用する（読む）主体は、地域と市民、行政とする。
- 「何故新総合計画を策定するのか」を明らかにする。
- 新総合計画・基本構想を策定するために利用した情報、現状分析、検討のプロセスを明らかにする。

2 起草に当たっての論点整理一②

- 新総合計画は、藤沢の20年後（2030年）を見据え、10年後の姿を示すビジョンとする。
- 基本構想の理念などを踏まえ、基本計画、実施計画で担保するものの方向性を示す。
- 地域経営100人委員会、地域経営会議などで検討が行われている「生活課題に基づく課題整理と分析」「地域まちづくりの方向性」「目標の達成度を測る指標化」などを基本計画で担保することを明らかにする。
- 生活実感を感じ取れる「藤沢づくり」を明記する。

基本構想の構成・策定 スケジュール



基本構想の構成（第1章）

第1章 私たちがめざす藤沢の未来

I. 「私たちの政府」宣言

II. 新総合計画の枠組と基本方向

2-1. 計画のフレームと構成

2-2. 計画策定のプロセス

III. 基本構想

3-1. 将来像と基本理念

～ 20年後の自律と協働の姿 ～

＜地域経営を進めていくための3つの基本理念＞

3-2. 「地域・市民と行政がめざす20年後の都市 ふじさわの姿」

3-3. 「藤沢づくり」のめざす方向性

～ 20年後の藤沢市をめざして今から始める

「藤沢づくり」 ～

基本構想の構成（第2～3章）

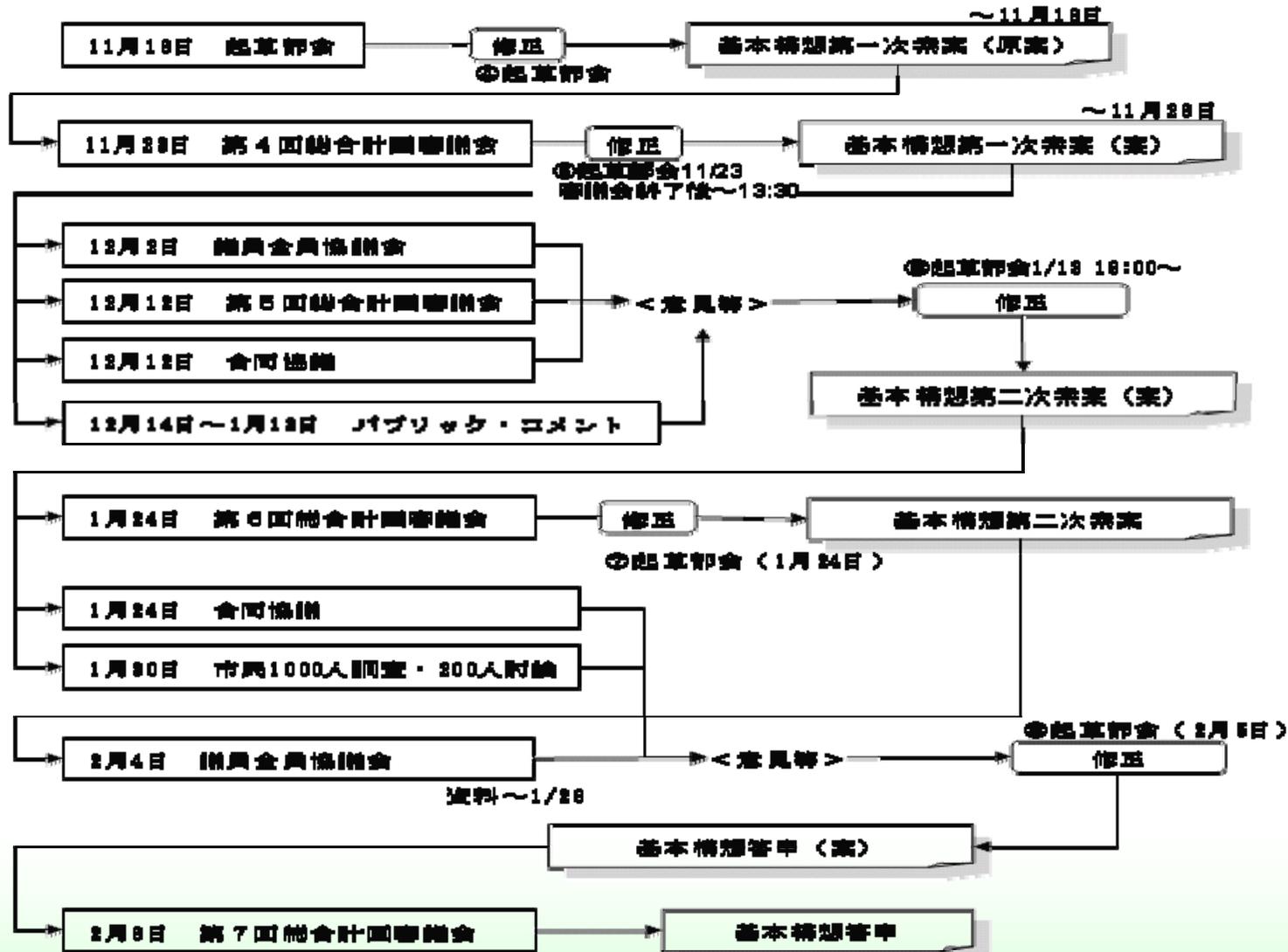
第2章 三層構造のプロセスから発意された「藤沢づくり」 の視点と課題

- I. 新たな「藤沢づくり」の視点と課題
 - 1-1. 新たな「藤沢づくり」の視点
 - 1-2. 新たな「藤沢づくり」の課題

第3章 まちづくりの沿革と取り巻く状況

- I. まちづくりの沿革と取り巻く状況
 - 1-1. 藤沢市のまちづくりと総合計画の沿革
 - 1-2. 計画策定の背景 ～藤沢を取り巻く状況～

基本構想の策定スケジュール



※ ④については、メールによる意見交換

(参考)

市民電子会議室での開催状況

- 会議室名
- 「未来地図を描こう！新しい総合計画に向けて」（市役所エリア）
- 会議室の概要
- 「藤沢らしさ」をテーマに，10月13日から（集中討議は，10月26日から）11月13日まで意見聴取を実施
- 参加状況等
 - 会議室参加者数 177名，発言総数 93件，総アクセス数 1,618件（ページビュー）
- 「藤沢らしさ」から導かれた主な発言内容
 - 観光：交通アクセスの利便性を活かし，観光資源としての江の島，湘南海岸を基盤とした，オフシーズンを含めた通年リゾートとしての再構築
 - レジャー：生活と都市を結びつける娯楽（施設）
 - 環境：多様な自然環境と市民発意の景観等環境形成，都市機能と自然とのバランス
 - 混在：歴史・文化，認識・価値観，属性等の混在と共生
 - 産業：市内産業（企業）の育成
 - 安全・安心：環境面での安全・安心と持続可能な都市の構築
 - その他：市民，企業，行政の持つアイデア，ノウハウの活用とそのためのコミュニティ形成

総合計画審議会・地域経営戦略100人委員会 合同協議の進め方について（案）

2009年12月12日(土)13:00～15:00

於 湘南台市民センター

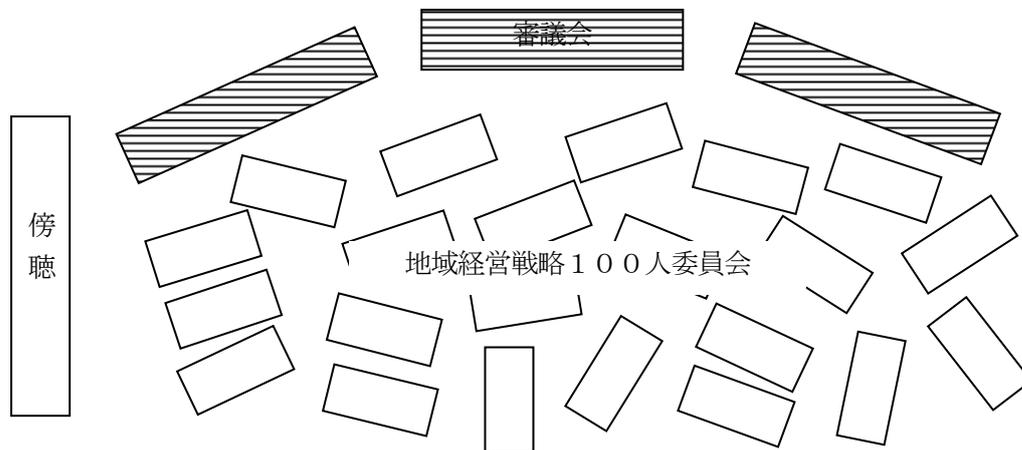
1 配布資料（事前配付）

- (1) 「地域経営戦略100人委員会」・「わいわい・がやがや・わくわく会議」・「庁内新総合計画検討会議」検討経過表
- (2) 「新総合計画基本構想（第一次素案）」
- (3) 「次第」

2 目的

地域経営戦略100人委員会からの「藤沢らしさ」・「生活実感からの気づき」・「地区ごとの課題」等の意見提案に基づき、総合計画審議会で練り上げた「基本構想第一次素案」について合同協議を行う。

3 会場レイアウト及び着席方法、職員配置等



- (1) 100人委員会の委員は、地区別・領域別でなくランダムに、1テーブル6～7人見当で着席してもらう。
- (2) 各テーブルに職員を書記として1名配置する。（意見は言わない。）

4 進行

- (1) 会長あいさつ（2分）
- (2) 検討経過報告及び現総合計画の評価（事務局・3分）
- (3) 基本構想第一次素案の基本的考え方（会長・7分）
- (4) 基本構想第一次素案の概要（事務局・7分）
- (5) 基本構想第一次素案に基づいて100人委員会グループ協議（グループで協議し、質問・意見・提案を、箇条書きで優先順位をつけて集約し、書記がペーパー1枚にまとめ最後に事務局へ提出・15分）※この間審議会委員は、グループ協議の様子を見て回る。
- (6) 合同協議
 - ア グループ代表から質問・意見・提案について発表（3分×22グループ＝66分）
 - イ 審議会総括（会長・コーディネータ・10分）